

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0870101631		
法人名	社会福祉法人 翠清福祉会		
事業所名	グループホーム かたくり		
所在地	茨城県水戸市河和田町4517-1 (電話) 029-309-5622		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年1月28日	評価確定日	平成21年5月14日

【情報提供票より】 (平成20年12月6日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	15人, 非常勤 3人, 勤換算 12.1人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建の ~ 1階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年12月6日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5	要介護2	4		
要介護3	8	要介護4	1		
要介護5			要支援2		
年齢	平均 86 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	茨城保健生活協同組合城南病院、おおさわデンタルクリニック
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者や職員はホーム内に設置する教育研修委員会やケアプラン委員会、リスクマネジメント委員会、地域交流委員会で話し合い、常に利用者の人権と尊厳を大切にしたいと努めている。  
医療機関と連携し月1回の往診や体調の変化に応じた支援をするほか、利用者や家族の希望にそった他病院への通院支援をしており、利用者や家族が安心できる生活を確保している。  
介護計画は家族や利用者の意見や要望を踏まえ、理学療法士や作業療法士の意見を参考に作成するとともに期間に応じた見直しや利用者一人ひとりの状態に即した介護計画に見直している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で改善課題はなかった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義や目的を全職員に周知するとともに、自己評価をユニットごとの職員で話し合い作成している。 外部評価結果を管理者会議で分析し、職員会議で改善や対応を検討するなど評価を活かしてサービスの質の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、外部評価の結果やホーム事業の運営状況、家族会会議内容や収支状況、利用者の生活状況などを報告し、出た意見をサービスの質の向上に活かすとともに、その結果を家族会や広報誌等で報告している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員は家族の訪問時や年4回開催している家族会会議等を利用して不満や要望等を聴き、苦情解決委員会で検討するとともに運営推進会議等で報告している。 重要事項説明書には苦情相談受付窓口がホームだけの記載となっているので、国民健康保険団体連合会や水戸市介護保険課、水戸市社会福祉協議会など第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、外部に意見を寄せる機関があることを説明することが望まれる。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し納涼祭や清掃活動、公民館活動に参加している。 幼稚園児との交流や小学生の総合学習への協力、地域マップの作成、近隣連絡網による訓練の実施、散歩や買い物などを通して地域の人々と積極的に交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「福祉宣言」は利用者の人権と尊厳を守り民主的な運営を主体としている。それを基本に地域友の会会員の協力を得て、利用者が生きる喜びを持ち地域生活ができるよう安心と尊厳のある生活支援をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念を基本として独自の理念を管理者、職員で話し合いつくっている。常に理念を具体化し会議等で確認するなど全職員が理念を共有し実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し納涼祭や地域清掃活動、公民館活動に参加している。幼稚園児との交流や小学生の総合学習への協力、地域マップの作成、近隣緊急連絡網による訓練の実施、散歩や買い物などを通して地域の人々と積極的に交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的を全職員に周知するとともに、自己評価をユニットごとの職員で話し合い作成している。外部評価結果を管理者会議で分析し、職場会議で改善や対応を検討するなど評価を活かしてサービスの質の向上に努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、外部評価結果やホーム事業の運営状況、家族会会議内容や収支状況、利用者の生活状況などを報告し、出た意見をサービスの質の向上に活かすとともに、その結果を家族会や広報誌等で報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者が毎回出席し、課題等を相談するなど連携を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子は電話連絡や家族訪問時、家族会会議等で報告するとともに、担当職員からのメッセージや2ヵ月ごとに発行される広報誌を利用して報告している。 金銭は家族了解のもとホームで預かり利用者ごとに報告している。 また、職員の異動も報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の訪問時や年4回開催している家族会会議等を利用して不満や要望等を聴き、苦情解決委員会で検討するとともに運営推進会議等で報告しているが、重要事項説明書には苦情相談受付窓口がホームだけの記載となっている。	○	重要事項説明書等に国民健康保険団体連合会や水戸市介護保険課、水戸市社会福祉協議会など第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、外部に意見を寄せる機関があることを説明することが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響の配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者は同一敷地内の他サービスの職員とも顔馴染みになっており、法人内で異動があっても利用者の安心した生活が確保できる環境になっている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員は3ヵ月研修や法人主催の経験年数、職種ごとの研修をはじめ、内部研修や外部研修に参加している。 ホームは教育研修委員会を中心に年間研修計画にそって研修を実施し、職員は積極的に参加するとともに職場会議等で研修内容を報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームを他のグループホーム職員の実習施設として提供するほか、市内のグループホーム連絡協議会に参加するとともに市内や県内の同業者と情報交換をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心して生活ができるよう、自宅や施設、入院先の病院を訪問したり、ホームを見学してもらい納得したうえで利用を開始している。 不安を抱える利用者には家族の訪問を増やしてもらったり宿泊してもらうなど、徐々に馴染めるよう家族に相談しながら支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に喜んだり調理や季節の行事、野菜の作り方、生活の工夫など教えられたり励まされたり共に支え合い、感謝の声がかかる温かな関係を構築している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は立ち上げシートや24時間シートを利用し、日誌や職場会議、家族との話し合い、利用者の言葉・表情・動作など日々の関わりのなかから思いや意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族から希望を聴き、計画作成担当者、看護師、担当職員で話し合うとともに理学療法士や作業療法士の意見を参考に、利用者の身体状況に即した介護計画を作成している。 介護計画は利用者や家族に説明し共有するとともに家族の同意を得て確認印をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間を定めた見直しや心身の状態の変化に応じて見直している。 また、個別記録や家族面会時を利用して新たな情報や意向を把握し、現状に即した介護計画の見直しに努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望にそって通院や早期退院、自宅宿泊の支援をしている。 また、利用者の特別な外出や移送については、利用者や家族の了解を得て法人内の有償ボランティアによる移送サービスで支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回医師の往診があり利用者や家族の安心した生活を確保している。 また、利用者や家族の希望にそったかかりつけ医の受診支援のほか歯科医師による口腔指導を実施するとともに受診結果を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時や家族会等で重度化や終末期のあり方について説明している。 利用者の状態に応じて利用者や家族、かかりつけ医、職員等で話し合い、重度化に向けた対応方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮したケアや記録に努めている。 また、契約時に個人情報取り扱いについて家族に説明するとともに関係書類等は決められた場所に保管している。 年度初めに接遇マナーの学習会を実施している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや体調に配慮するとともに、その時の利用者の気持ちを尊重し、調理や食後の片付け、洗濯物たたみ、居室の清掃、草花や野菜の手入れ、散歩など柔軟に支援をしている。 また、職員は利用者とその日の過ごし方の希望を聴いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に献立の作成や買い物、食事の準備や後片付けなどできることをしている。 和やかな雰囲気の中、職員も利用者と一緒に食卓を囲み同じメニューを食べながら支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望や体調に合わせて毎日実施し、入浴時間も利用者の希望にそって支援をしている。 また、利用者の希望により銭湯入浴を実施している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の買い物や調理、居室の掃除、草花や野菜の手入れ、絵画、テレビ鑑賞など利用者一人ひとりに合った楽しみや気晴らしの支援をしている。 ホームや公民館行事等への参加を通して張り合いや喜びの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により散歩や買い物、ドライブ、行事を通して気分転換やストレスの発散、五感刺激の支援をしている。 また、家族と外食することもある。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は権利擁護の学習会に参加し鍵をかけることの弊害について理解するとともに、利用者の安全面に配慮しながら鍵をかけない自由な暮らしを支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域の人々の参加を得て年2回避難訓練を実施している。 隣接する法人内施設の訓練にも参加し、避難経路を確認するとともに、近隣緊急連絡網訓練を実施している。 災害時における地域の協力体制を構築している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に栄養バランスについてアドバイスを得ている。 1日の食事や水分摂取量を記録し、習慣や体調に合わせて必要量を摂取できるよう支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は畳の部屋に炬燵、談話室には椅子や机、テレビ、本箱を設置するとともに利用者の手作り品を掲示している。 玄関入り口にベンチを設置し色とりどりの花を植え、季節を感じながら利用者同士でくつろいだり一人で過ごせる居場所を確保している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談し居室に使い慣れた時計やテレビ、急須や湯のみ、小物入れ、仏壇、鉢花、カレンダー、手作り品などを置き居心地よく過ごせるよう支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。